

# 会議録

平成 26 年 6 月 24 日(火) 場 所 3 階 第 5 研修室

会 議 名：第 2 回総務・経済常任委員会

出席委員：竹田委員長、新井田副委員長、福嶋委員、又地委員、佐藤委員、吉田委員  
平野委員、笠井委員、東出委員、岩館委員

欠席委員：なし

会議時間 午前 10 時 00 分～午後 3 時 48 分  
事務局 山 本、吉 田

---

## 開 会

### 1. 委員長挨拶

**竹田委員長** 皆さん、おはようございます。

ただいまから、第 2 回総務・経済常任委員会を開会いたします。

ただいまの出席委員は 10 名でございます。

よって、委員会条例第 14 条の規定による委員定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。

ただちに本日の会議を開きます。

本日の会議次第は、別紙配付のとおりであります。

きょうのスケジュール的には、このレジュメに沿ってまず現地を確認した上で、戻ってから縷々、質疑等を受けたいというふうに思っております。

そういう進めでよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

**竹田委員長** それでは、このあと現地のほうにいきたいと思しますので、暫時、休憩をいたします。

**休憩 午前 10 時 01 分**

**再開 午後 2 時 26 分**

## 2. 調査事項

### (1) 現地調査

#### <建設水道課>

・北海道新幹線工事に伴う町道の維持・管理状況について

・町道南北線改修工事について

**竹田委員長** それでは、休憩を解き、会議を再開いたします。

午前からこの時間まで、現地を確認してまいりました。大変、暑くなった時間帯で、大変皆さんそれぞれ疲れていることと思えますけれども、このあとのスケジュールもありますので、これから事務調査のほうを続けていきたいと思えます。

まず、現地を見て、建設水道課所管の新幹線工事等に伴う町道の維持管理状況、これについて大釜谷から順次、現地を見させていただきました。それで、各委員のほうからそれ

ぞれ感じたこと、今後要望する事項等を含めて発言をお願いしたいと思います。

平野委員。

**平野委員** 新幹線工事等、いまは高規格道路で工事車両が大変多く通るということで、以前より「その後の補修等をしっかりしていただきたい」という町民からの要望は届いているのが過去にも何度もお話をしているとおりで。きょう見に行つて、我々委員一同、あるいは行政も見に行つて現状を把握されたと思いますが、一緒に見た中で、あるいはいままで進めてきた中で今後の補修の計画といたしますか、どのような話し合いをされているのかまず説明をいただきたいと思います。

**竹田委員長** 若山課長。

**若山建設水道課長** きょうは、大変ご苦勞様でした。

私ども建設水道課担当としまして、きょうご覧になった大釜谷から、あと亀川ですとか、幸連ですとかこういった道路につきましては、事前に鉄道・運輸機構あるいは開発局のほうと、この運搬路の使用についての打ち合わせを何度かさせていただいております。

道路の補修につきましては、例えば大釜谷であれば去年の春、あるいはことしの春と砂利の敷均し等の補修も行っております。

また、亀川についてはどうしても舗装してありますので、大がかりな補修がいま現在あまりできなくて、部分的な穴埋め、パッチング等で対処しているのが現状であります。

それで、今後も新幹線の工事はだいたい終息に向かっているのですけれども、高規格道路の工事については今後も続くということで、その辺の補修の負担箇所というのですか、負担割合といたしますか、その辺を再度開発局、機構さんといま打ち合わせをしておりまして、効率的で通行されるかたに支障のないやり方を今後模索していながら、最終的には通行に一番影響のない補修を。大がかりな補修はいま現在すぐできない状況ですけれども、小規模なものはその都度直していきながら、最終的には返していただく段階においては、町道として利用しやすい形での返還といたしますか、そういうことでいま現在話を進めているところです。

**竹田委員長** 平野委員。

**平野委員** いまの道路の件についてはわかりました。

それと、もう 1 点。直接道路とは関係ないのですけれども、いま現在高規格道路に入られている業者さんの町民に対する対応といたしますか。以前、新幹線工事の際は、亀川でいいますと鉄建さん、飛島さん等々が入っていた時は、町民説明会をしたりだとか地元の自治体との連携をしたりだとか、あるいは車がすれ違う際には地元の町民の優先・安全というのをかなり徹底して取り組んでいただいたように思うのですが。きょう、現場に行きまして亀川線よりも車の通りはだいぶ少ない場所かと思うのですが、その辺の徹底がすれ違う際にもされていないのかなという実感も受けましたし、以前からそのような声もいくらか聞こえておりました。

やはり、いくらほとんど人が通らない箇所とはいえ、きょうも自転車が 1 箇所に止まっていて、いま山菜採りなのか人の姿は見なかったのですけれども、来ていた現実もありますし、その業者さん。いま入られている高規格の道路の業者さんへの安全の徹底等をどの程度いままで話をされているのか。あるいはされていても現状は足りないと思いますので、もう少し徹底していただくようなお願いといたしますか、そういう話を今後していただけな

いでしょうか。

**竹田委員長** 若山課長。

**若山建設水道課長** ありがとうございます。いまのお話の中でありましたように、前年の町政懇談会におきましても、札苧地区、泉沢地区、釜谷地区の方々からお話をいただいております。その中で、ことし春になりまして、開発局のほうに「地元への説明を再度徹底できないか」という相談をしたところ、開発局のほうで地元の町内会長さん等と打ち合わせされた中で、先月末に泉沢におきましては地元説明会という形をとらせていただきました。札苧と釜谷地区については、「そういう工事の中身、工程等を知らしめるチラシを示してくれる程度で十分ですよ」ということで、直接的な説明会は泉沢地区でしたけれども。

いまお話にありましたように、地元の方々への通行に極力影響のない範囲で、あるいは主に橋呉の入り口からほとんどの車両が出入りしていますので、その車両の例えば一週間の予定台数ですとかそういったことも含めて、地元へはその都度連絡を取れる体制を作っていきたいと思っておりますし、いまおっしゃられたように交差箇所で地元のかたが待たされたり、あるいは危ない思いがないようなことは再度、私どものほうから申し入れしたいと思っております。

**竹田委員長** ほかにございませつか。

平野委員。

**平野委員** 以前の常任委員会でも話したかと思うのですけれども、地下歩道にきょう現地視察に行きまして、以前から子ども達が行き通るのに非常に危ないといひますか、恐いという恐怖を感じるという声は行政側にも届いていると思ひます。現状、きょう通りまして、日中ですからあの程度といひますか、まだいくらか日が差して明るい感じはするのですけれども、これ夜になるとまた風景が一変する現状があります。

今後、休憩といひますか現地視察した中で、「絵を描いたらいいのではないかとすとか、ミュージックをかけたらどうなんだ。」等々の声もありましたが、今後より子ども達。子どもばかりではないのですけれども、安心・安全に通れるような策を今後ぜひ検討をしていただひいて、実行していただひきたいと。現状何か考えているのであれば、その部分を答えていただひきたいのですけれども。

それと、もう1点。非常ボタンがあつたのですけれども、非常ボタンをおそらく押すと、出口のところに赤灯があつて、光る程度なのか音が鳴るのかちょっと確認はできていないのですけれども。あのとおひ、木古内町のあの通りで人がたくさんいる、多いわけではないので、例えば非常ボタンを押してもすぐ気づく人がいるのかなというよな心配も合わせて受けました。その辺についての見解と改善をどのよなにした形ですていけるのか、もしいま現在なければその部分も合わせて改善を検討していただひきたいといひことです。

**竹田委員長** 若山課長。

**若山建設水道課長** おっしゃられるよな地下歩道については、きょうご覧になつたとおひ、例えば夜間になれば危険を感ずる、あるいはきょう見た中でも一部水たまりみたいな形もある。それと、私どもも前から相談をしていたのですけれども、やはり暗い場所が長く続くといひことで、防犯カメラ等を含めたそういう安全対策を、最終的に受ける前にはその辺の詰めはしなければならぬといひことで認識しておひまして、いまの非常ベルのあり方についても、効率の良い形での運用ができるよなことを再度打ち合わせさせてい

ただきたいと思います。

**竹田委員長** 新井田副委員長。

**新井田副委員長** ちょっと関連ですけれども、いまの平野委員から地下道のちょっと話が出ましたけれども。一つの提案として、やはり子どもさんもある程度優先しなければいけない部分もあると思うのです。そういう意味では、やはり我々もそうですけれども、やはりそういう保護者の皆さんですとかそういうかたもやはり交えた中で、いろんな提案をしていただくと。そういうかたの話を聞いた中で、ある程度方向性を出していきながら、最善策をとるような形のほうが私は個人的にそう思っているのですけれども。その辺も要望としてちょっとお聞きいただければなとそんなふうに思っています。その辺はどうでしょうか。

**竹田委員長** 考え含めて、あれば。なければないで結構です。

若山課長。

**若山建設水道課長** ありがとうございます。その辺は利用者、あるいはそういう逆に我々みたいな立場の人間ではなくて、そういう主婦さんとか、あとは高齢者のかたとかそういうかたの意見も参考にしながらしていきたいと思います。

**竹田委員長** 福嶋委員。

**福嶋委員** 遅れてきましたけれども、誰かが質問しているかもしれませんが、ダブっているのかもしれませんが、私が1点感じたこと。私はプールに6年7か月勤務しまして。

**竹田委員長** それはまだです。いまは道路です。

それで、道路の関係ですけれども、先ほど若山課長から道路については新幹線関連工事、それと高規格道路というようなことで二つに分かれるのですけれども。まもなく新幹線関連については全て工事は終結すると思うのですよね。ですから、やはり新幹線、運輸機構にやってもらう部分の道路の維持補修というか、そういうものも整理をしないと。高規格はこれからまだ何年か先があるわけですから、その辺はなるべく町の財政負担にならないようなそういう方策をやはりとっていただきたいというふうに思っています。

それと、先ほど現地を見て皆さんの声でも出ていましたように、地下道の北側、栗山さんの一画。あの辺、地下道に入るたたきの部分を含めて、舗装をしてあげるべきではないだろうかと思えます。

それと、あの周辺、あの辺の近所の方が、地下道の入り口まで除雪をしているという姿をやはり見えています、我々も。やはりそうすれば、町の重機もあそこに除雪で入れるように、やはりあそこ舗装をしてぐるっと循環できるように何とかやはり改善策を。今年度、道路の維持補修でも1,000万円くらい予算を見えていますから、その中で何とかやはり対処してもらいたいという気がします。それは、きょうの現場を見る限り、痛切に感じたところでは。これについては、十分検討をしていただきたいです。

(「関連」と呼ぶ声あり)

**竹田委員長** 福嶋委員。

**福嶋委員** いま、委員長からぐるりの舗装のことについて、私は担当者というか地権者から、寄付した地権者から強烈に依頼されていますよ。「町がもらった」と。寄付採納を受けて共同の道路ですよ。それを町に無償で寄付採納をしたと。そうしたら、あと始末をき

ちんとやらないでもらってしまったら、何の意見も聞きにこなくなったと。かなりの談判ですよ、しかも元町職員ですよ、我々の先輩ですよ。やはり、やったからにはあと始末も、その点の雑音も、振動もかなりの影響があってストレスが溜まって、オーバーに言うと「難聴になった」とそういう意見もありますよ。しかも、傾斜がついたところを「天ぷらでもいいから舗装してくれ」と、私に依頼されて課長に言っておりますよ。それを、やるかやらないか先ほど聞いたら「200万円かかる」と。金額の問題ではないでしょう、あの辺のぐるりを考えたら。200万円の用地にいくらかかったのですか、三角のこう。あれは、共同名義の5軒の個人の財産を無償で提供したのですよ。そうしたら、そういう希望も聞かないで「やるかやらないかわからないよ」のその答弁は間違っていますよ。

ぜひやらせてください。

**竹田委員長** 課長、答弁ありますか。

若山課長。

**若山建設水道課長** いまおっしゃられる歩道橋の横の道路、旧中学校線から冷水線墓所に行く道路にアクセス道路で、もともと個人名義、共有名義の土地でありました。今回、新幹線にその道路の一部が支障になり、その新幹線に必要な場所については、個人のかたから新幹線側が買い上げて、残った残地については「自分達ももう維持管理もできないので、寄付したいので受け取っていただけませんか」という相談を受けた中で、町のほうもそれを受け取ったと。その時の受け取り方として、「将来的にはこの状態ではなくて、舗装されるのが理想ですね」というお話をいただきながら、こちらのほうも「その辺は宿題にさせておいてください」ということで、その当時その寄付をいただいたところです。

勿論おっしゃられるとおり、現地的には舗装することが理想と考えておりますので、今後その実現に向けて努力したいと思います。

**竹田委員長** 東出委員。

**東出委員** 1点だけ、ちょっとお伺いしたいのですけれども、札苧林道。札苧側から入って森永さん側のほうへきょう出てきたのだけれども、昔は森永さんの家の上のほうから出てきたのですけれども、きょうは下のほうから出てきたのですよね。札苧林道に関しては、昔から町へ林道として地主さんが町に寄付したという経緯があるのですよね。きょう来た道路を見ると、はたしてこの道路はどちらを使うのかなというふうに私自身も。これ将来、札苧林道はどういうルートを通ってくるのかちょっと私自身も描ききれないです。ということは、新幹線の線路あり、高規格のいま工事もくるでしょう。そんなものだから、どういう形で札苧林道はコースを辿ってくるのかなという部分で、ちょっとわからないのですよ。もしできれば、きょう説明はしていただくのもさることながら、できれば完成を目指してのルート、これを図式で表してもらえないかなと思うのですけれども。その辺、現状を含めてどうなっていますか。

**竹田委員長** 若山課長。

**若山建設水道課長** 現状の札苧林道につきましては、木古内側が森永さんの家の裏といたしますか横を通して。そして、札苧幸連線の地蔵橋のあたりに出るというルートでした。

今回、札苧と木古内の間付近から新幹線に、あるいは高規格道路によって林道が付け替えとなっております。それで、きょう通ってきたルートにつきましては、途中から新幹線沿いに走ってきて蛇内線に出てきたのですけれども、あくまでも林道は個人のかたという

か造林のため、植林のための道路ですので、個人のかたの土地に対していままで出入りできたものが出入りできなくなるとか、そういうことがないように機能補償として今回は新幹線の両側、あるいは森永さんの家の脇の道路をきょうは通りませんでしたけれども、そこについてはその辺の山をお持ちのかたが出入りするのに支障のない形での林道としては残っていますし、あくまでも何と申しますか。通るルートは変わったのですけれども、それぞれの地権者に対して、機能を守るための道路は確保しているということなのです。

**竹田委員長** 東出委員。

**東出委員** それぞれの山を持っている人、それから畑、草地いろんな持っている人達に対してはそれなりの配慮をした道路を札荊林道として開設するというのは、これは当たり前なのです。それを、返してやるのがごくまた当たり前の話なのだけれども。ただ、私はきょうでなくてもいいのですよ。将来、何年後になるのかわからないですけれども、あれは何年後になったら札荊林道としてきちんと使えるようになるのか、その辺の年次もちょっと、私先ほどの質問で聴くの忘れたのだけれども。年次も含めて、どういうふうな形になるのか、きょうこの場で答弁が難しいのであれば後日、資料として出していただきたいですし、早くその辺を知らしめる必要もあるのではないのかなと思うのですけれども、いかがでしょうか。

**竹田委員長** 課長、いまの件は資料というか図面でルートを線引きしてもらったほうがわかり良いのかなという気がしますけれども、その辺の資料はもしきょう無理であれば後日でもいいということですから、そういう資料を作れるのかどうか。

(「休憩」と呼ぶ声あり)

**竹田委員長** 暫時、休憩をいたします。

**休憩** 午後 2時47分

**再開** 午後 2時50分

**竹田委員長** 休憩を解き、会議を再開いたします。

若山課長。

**若山建設水道課長** 札荊林道につきましては、開発局で行われている高規格道路の進捗状況も鑑みながら、その完成の時期を見据えた中で、今後のあり方について再度検討していきたいと思っております。

**竹田委員長** ほかに。

建設水道課、もう一本。南北線の改修工事関係も含めて、何かございませんか。道路でも結構です。

(「なし」と呼ぶ声あり)

**竹田委員長** それでは、ちょっときょうの現地調査ではなかったのですけれども、中野踏切をわたってすぐの。昨年だったか、一昨年かな、町道認定した区間ありますよね。あそこは冬期間だから通行止めになっているのかなというふうに思っていたのですけれども、雪が溶けてもなお且つ通行止めで遮断されているのですけれども。その時の町道認定の議論の中でも、この道路が必要かどうかという部分も含めた議論をした中で、「必要だ」ということで町道認定にしたわけですから、何でこの時期。工事車両で危険だからというの

ならわかるのだけれども、だいたい工事も終結しつつある中で、通行止めにするのか永久的に通行止めなのかどうなのかという部分も含めて、ちょっとその辺の見解を求めます。

若山課長。

**若山建設水道課長** 中野道道踏切わたってすぐ右手の旧山崎 1 号線、現在山崎 8 号。すみません、ちょっと自信がないので山崎線箇所にしておいてください。

そこにつきましては、現地を昨年度見ていただいた中で、交通に影響がある、あるいは工事車両に影響があるという、工事車両のことで危険な場所だというご指摘もいただいた中で、我々道路管理者としてもちょっとこの状態はよろしくないというふうな判断もありまして、公安委員会と相談した中で、「道路管理者さんが危険だと思うのであれば、通行止めについてはできなくはない」という指導といたしますか、見解もいただいた中で、通行止めはその当時からしました。冬が終わって夏になってもいまも止めているのですけれども、やはりいま現在山崎 1 号を普通のかたは利用をされていますし、歩行者については歩道を歩いてきて、いまの道路も歩いているかたもいらっしゃいますけれども、一般車両の車については新しい山崎 1 号を利用していただくという形の中で、あくまでも踏切のすぐの交差点については、交通安全上も危険だというふうな認識をしていますので、この通行止めについては、今後も車両については通行止めをしたいというふうに思っております。

**竹田委員長** ただ、心配するのは、自転車なのです。あそこ、止めるのだったらもう自転車も通れないように止めてもらったほうが逆にいいのかなと思います。バリケードの横が空いているのです。自転車がいくらでも通行ができるのです。踏切をわたってグッと曲がる自転車もあれば、もう出てスーッと踏切に行く自転車も見かけるものだから、その辺で車だけは止まっているけれども、歩行者あるいは自転車の通行でトラブルがなければいいなどそういう心配をするものですから、その辺も含めて安全対策上しっかりやっていただきたいというふうに思います。

ほかに。

(「なし」と呼ぶ声あり)

**竹田委員長** なければ、以上で建設水道課を終わりたいと思います。

#### <教育委員会>

- ・町民プール建設工事について
- ・ふるさとの森スキー場の改修について
- ・資料館(旧鶴岡小学校)の整備状況について

**竹田委員長** 続いて、教育委員会。プール、スキー場、資料館等について、一括質疑を受けたいと思います。

質疑ございませんか。

福島委員。

**福島委員** 先ほど言いかけたことですがけれども、きょうちょっと私は前回欠席したものですから、きょうはじめて中に入って外観を見ました。なぜ、設計、ここに建築の担当者がいますからちょっと・・・聴取不能・・・質問をします。プールの事故が雪でつぶれたのに、なぜあんな勾配にしたのですか。どういう理由ですか。前に私も 7 年近くも勤務して、雪

で心配で昔の話をすれば鬼が笑うかもしれないけれども、どうして冬の雪の対策を考えないでああいう設計にしたのですか。勾配があれで雪が落ちますか。冬にプールは営業してないでしょう。暖房使っても、冬にオープンしていなかったら使わないでしょう。そうしたら、冬にあの平らな屋根で雪が落ちますか。冬に雪を落とす予算を毎年計上しなくてはならないでしょう。あんな勾配にした根拠がわかりません。内地の設計屋がしたならわかりますよ。北海道の豪雪地帯で、あんな勾配で雪が落ちますか。昔、私がいた時に、職業訓練の生徒が30人も50人も冬の講習をやっている時に、無償で屋根に上がってやってもらったのですよ。そのことを忘れたのですか。どうしてつぶれたのですか。全然反省をしていないです。何考えているのですか。しかも、厚沢部のあなた達は見に行っただけでしょう。厚沢部の屋根の勾配見てごらんください。全然なっていないです。全然反省をしていないです。ただ、設計屋に任せればそれでいいのですか。そして、空調の高さも、室内の温度調整も、空調の設備も、あれでいいのですか。全然、あなた達は維持管理が、将来にわたって前のところもそうだったけれども、雪の落ちる場所も含めて全然おかしいです。何も反省していないです。何のためにいままでやってきたのですか。私はきょう見た時、腹が立ってどうにもならなかったです。

**竹田委員長** 福嶋委員、いまの部分については技術担当もおりますし、課長もいますので、その辺の。どうしてそういう屋根勾配にしたのか、大丈夫なのかどうなのかという部分を含めて説明を求めます。

小池主幹。

**小池主幹** いま、福嶋委員からのお尋ねでありましたけれども、今回のプールについては屋根の雪を下ろさない、雪をためるという設計でやっております。だから、いままで降った雪、木古内町で1 m 50 cmくらいは積もっていると思うのですけれども、そのくらい積もっても大丈夫だということで設計をしておりますので、それは雪を下ろさなくても大丈夫です。以上です。

設計の基準は、1 m 50 cmということでやっておりますけれども、実際はそれの余裕を持っておりますので、2倍くらい。2倍までは、2 m以上積もって。2倍となったら3 mなのですけれども、そんなにも積もったら大変だと思うのですけれども、2 m以上、2 mくらい積もってもそれは実際は大丈夫です。設計上は1 m 50 cm積もっても大丈夫です。

**竹田委員長** 福嶋委員。

**福嶋委員** 私は素人だから、技術屋に反発しても「何を言っているんだ」ということになるかもしれませんが。ただ、屋根の採光面積。何であんな小さい、何のために採光面積をとるのですか。あの意味ありますか。厚沢部の屋根を見てごらんください。前の時の採光面積、温度をとるためにどのくらい増やしたか全然反省していないでしょう。あの勾配というのは、いまガラスの質も違うし、「雪がたまったら2 mたまる。それで大丈夫だ」、よくそれであなた達照会して。全く素人には考えられません。いま1,200 m<sup>2</sup>から1,000 m<sup>2</sup>になったのですよ、990 m<sup>2</sup>で規定があつてから。2割少なくなったからといって、「2 mたまって大丈夫」、全然話になりません。あとこれ以上言っても埒があかない、いまさらできてしまったから仕方がないけれども、今後含めて維持管理に大変です。雪は一人で落ちますか。何も焚かないで落ちますか。温度も焚かないで、あの冬に何も使わない時に、雪がどうやって落ちるのですか。空中で水を通すのですか。言ってごらん。



**竹田委員長** 若山課長。

**若山建設水道課長** 今回のプールの屋根につきましては、降った雪についてはそのままの状態、溶かしたり落としたりしないで、春の融雪まではそのままという形をとっています。それに耐えうる構造として設計しておりますので、その辺は心配はないかというふうに理解をしております。

また、採光面積が足りないのではないかというご指摘もありますけれども、今回については水については加温をしますし、また採暖室あるいは暖房機も設置する予定ですので、プールの開設期間について4か月でしたでしょうか、を目指しております。

**竹田委員長** 新井田副委員長。

**新井田副委員長** いま、福嶋委員のほうから天窓のちょっと話が出まして、採光もさることながら、いまいまプールは概ねできているのですね、内部の。そういう中で、おそらく中間検査いろいろやっていると思うのですけれども、もう足場は当然外れているのですけれども、要するに天窓と屋根との取り合いが非常に雑なのです。こう言ってもちょっと見当が付かないかもしれない、イメージができないかもしれませんが、いわゆる天窓の下に目枠を組んでいるのですよ。それと、いわゆる何というのですか、屋根材のこう取り合わせ。その部分の隙間が非常に雑。どうしてああいう、いわゆるアングルのなもので化粧できなかったのかなとそういうちょっと思いなのですけれども。いまですと、さらにまた今度、仮にやり直すとかそういう補修がきくのかどうか。ああいうところの当然足場を外すということであれば、当然屋根の部分だとかそういう取り合いも含め、あるいは雨漏り状況を含め、先ほど言ったように検査があるはずなのです。その検査段階でああいうちょっと何というのですか、我々素人から見ても「おい、ちょっとこの隙間何なの」と、全部の天窓の箇所、いわゆる隙間がみんなランダムなのです。つまり、均一性がないのですよね。天窓はいわゆる長方形ですから、上下の隙間が片方が小さくて片方が大きいとかとそういう状況になっているのですよ。だから、ああいうのというのは、せっかくある意味ではやはり良いものを作っているわけですから、そういう部分をやはり検査の段階で、ちょっと細かい話なのかもしれませんが見ていただいて。いまの段階ですと、また足場を組んで補修をやってやれないことはないのだけれども、そういうふうになんかちょっと感じました。ちょっとその辺に関して、ご答弁お願いしたいのですけれども。

**竹田委員長** 小池主幹。

**小池主幹** ご指摘のとおり、隙間がランダムになっておりました。これは、私のちょっと現場のことになるので申し訳ありませんでした。直せるところは今後直しますし、今後このようにないように努めます。

**竹田委員長** ただ、いまの件、私はそうではないと思うのですよね。だから、先ほど聞いているのは、例えば中間検査だとか何なにのチェック機能のその時点でそういう指摘。いっぱいありますから、「いや、ここはちょっと忘れた」と言う箇所があるかもわからない。だけれども、やはり大事な部分、もしかしたら雨漏りするのではないかという部分は、ちょっと。だから、いまのそういう答弁ではなくて、このあとまだ工期があるわけだから、「全部やり直します」と、それならそういう答弁でいいのですよ。いまの小池主幹の答弁だったら、「そこをわかっていた」と言うのだから、「それなら直してください」とこちらは求めているのだから、「やります」と言ってくればいいのですよ。

若山課長。

**若山建設水道課長** 今回、中のほうから見たところ、おっしゃられるような隙間がきょう見えたところではありますが、屋根の上からの見たわけではないものですから、いまずぐ漏れるとか大丈夫だとかという言い方はいまここではできないのですけれども。おっしゃられるとおおり、隙間が空いてではないということは、きょう見た目でわかっております。

それで、あと業者さんのほうに、この隙間についてはどういう意味があるのか。構造的な問題、そういう影響がないのか。再度確認をした中で、建物として問題があるような箇所であれば、おっしゃられるように手直しは当然必要かというふうに考えております。

**竹田委員長** 新井田副委員長。

**新井田副委員長** いま、課長のほうからおっしゃったように、当然使用者は我々はど素人ですから、ある意味見目でちょっと判断なのですけれども。当然、やはり出入りが今度多くなると、やはり「管理の体制が取れる」とそういう話が出るのではないかと思うのですよ。だから、いまのうちだとまだそういう手直しはきくはずですし、「ああ、やはり行政の管理体制というのはいいんだ」という部分を含めて、やはりそういう体制できちんとやってもらわないと。せっかく良いものを造るという思いの中で、ちょっとした隙間の問題がどうのこうのということで評価をされるよりは、やはりこうきちんとその辺を、そこだけではなくて、これからまだまだ検査があるわけですから、きちんと収まりの問題とかいろいろあると思いますので、十分管理体制をきちんと強化していただいて、良いものを造っていただきたいと思います。以上です。

**竹田委員長** 副町長、これ私は大事な部分だと思うのですよね。確かに、課長の答弁のように、たぶん天窓が雨漏りするような部分のあれではない。その内枠とか化粧の部分のあれでないかと、素人ですけれども私はそういうふうに見たのです。

ただ、天井を見て泳ぐこともあるわけですから、「何だあそこ随分隙間が空いているね」ということでなく、そういう部分。だから、構造上の問題はきちんと分析してもらわなければならないし。ただ、前の工事、工事契約の時も話をしましたけれども、同一業者のかたが例えば朝日団地、そしていまのプールをやっている。そして、たまさかちょうど重なった神社の社務所の施工も同一業者がやはりダブっている、重複しているのです。それだけの能力があるからとったと思うのですけれども、そういう部分がやはり心配なのです。手抜きがあるのではないだろうか、そういう忙しくて、そういう部分がきっちりできなかったとかと。そういう部分が、どういうやはり指導だとかあれしているのかというのが非常にやはり我々。臨時会の工事契約の時も発言をさせてもらいましたけれども、その辺副町長としてのそういうお考えがもしあれば、出していただきたい。

副町長。

**大野副町長** 本日は、プールのほうの確認、状況を見ていただきましてありがとうございます。

ただいま、ご質問にもありましたように、施工上なのか設計上なのか、ランダムになっているようなその箇所が一枚板でありました。これは、やはり徹底して調査をして、どこに瑕疵があるのかを追求した上で、しっかりとした対応をしてみたいというふうに思います。これは、やり替えも含めて一部補修といいますか、そういうのであればそれでやってもらいますし、構造計算上はそんなにあそこの部分が重要なということに

はならないとは思っています。そのずれによって、躯体に影響があるなんてことにはならないと思いますので。ただ、皆さんも見てわかるとおり、天井の屋根の部分というか、ちょうど中心の部分はそんなにピシッと止まっていて、軒先のほうにくると広がっていると。これは、やはり見た目でもわかることですから、しっかり対応をしなければならないというふうに思っています。

また、外構のほうもいま話には出ておりませんでしたけれども、指摘がありましたのでそこも対応をしてみたいというふうに思っています。

業者につきましては、これは主任技術者、あるいは現場監督員それぞれ配置をしておりますので、しっかりとした管理をしていただいているというこういう前提で我々も受け止めていますし、また受注者側もそういった技術者がいるということで受注しているわけですから、管理上そんなに問題があるというふうには思っておりません。

ただ、実際に現場でこういう事象が起きているのは実態ですから、そこはしっかりと追求をしてみたいというふうに考えています。

また、うちの監督員だけではなくて設計管理もお願いしているわけですので、その業者も含めて協議をしてみたいというふうに思っております。以上です。

**竹田委員長** ほかに。

(「なし」と呼ぶ声あり)

**竹田委員長** なければ、以上で建設水道課、教育委員会の現地調査を含めた事務調査を以上で終わりたいと思います。どうもお疲れ様でした。

暫時、休憩をいたします。

**休憩 午後 3時12分**

**再開 午後 3時20分**

### 3. その他

#### ・行政からの報告

**竹田委員長** それでは、休憩を解き、会議を再開いたします。

その他で、行政から町長の行政報告が出ておりますので。

町長。

**大森町長** ただいま、委員長のお許しをいただきましたので、行政報告 2 件申し上げたいと思います。

1 点目は、強風による被害についてでございます。

6 月 13 日未明の強風による被害につきましては、住家一部損壊が 3 棟、商店等一部損壊が 2 棟、物置では全壊が 1 棟と一部損壊が 2 棟、農業用ハウスでは全壊が 1 棟、以上のとおりとなっております。

この強風によるけが人等はございませんでしたが、被害額につきましては、約 190 万円程と推定されるところでございます。

なお、壊れた建物等の処理作業及び被害調査のため、町職員 20 名、消防署員 9 名が出勤しております。

また、当日の気象データによりますと、当町における最大瞬間風速は 28.8 m を記録しております。

次に、J R 江差線貨物列車脱線事故についてでございます。

6 月 22 日午前 4 時 15 分ごろ、J R 江差線泉沢・札苅間を走行していた J R 貨物の札幌貨物ターミナル発、宇都宮貨物ターミナル行きの貨物列車 21 両編成の 20 両目が脱線し、札苅駅で緊急停車いたしました。

この事故の影響で、22 日と 23 日の江差線を通過する全ての列車が運休となりましたが、昨日の 21 時過ぎに復旧作業が終了し、本日、24 日の始発列車から運転が再開されております。

また、事故によるけが人等はございませんでした。

さらに、事故原因につきましては、現在、国土交通省運輸安全委員会が調査中でございます。

以上、2 件の行政報告を終わります。

**竹田委員長** ただいま、2 件の町長から行政報告をいただきました。

皆さんから、何かございませんか。

平野委員。

**平野委員** 1 点だけ。行政報告の 2 番目のほうで、江差線の脱線事故について。

この件につきましては、2 年前にも同様の脱線事故があって、その原因についても未だ究明されていないということで、この事故に関しての怒りと申しますか、意見と申しますか、言い出すと切りがないくらいなのですけれども、これに付随した町の対応についてちょっと 1 点だけ。管轄は教育委員会になると思うのですけれども、ちょっとお聞きしたいと思います。

脱線があった今回に関しては、以前から言っているとおり、防災無線での脱線についての運休・運行の予定等を私の聞いた範囲では 2 回か 3 回かかったのかなと思ひまして、それは以前やっていなかったことなので、町民の周知については大変良かったと思っております。ただ、防災無線がかかったのが翌日の昼頃だったように思います。

ということで、汽車で通学している生徒の対応なのですけれども、たまたま泉沢にも中学生が 2 人いまして、駅まで行きましたと。そうしましたところ、J R の泉沢駅にはその対応等が何も貼っておりませんでした。これだけニュースになっているので、新聞とテレビを見たらわかるだろうという判断なのかわかりませんが。その中学生は汽車が動いていないんだなということで、ではバスがどういう対策をするのかなということで確認をしたところ、J R に聞いても「いまのところバスの代理・運行はありません」と。では学校に聞きました。学校に聞いても、「いままで学校では、それに関しての対応をとっていません」ということでした。それで、結果的にはたった 10 人なのです、中学生が釜谷から泉沢、札苅から通っているのは。結果的には、半分の子達が親御さんが送って、半分の子達は自転車で行ったということで、全員が無事に学校に行けた結果だったので、すけれども。

今後、親御さんが車があって送れる人はいいのですけれども、これ高校だったら話は別なのですけれども、中学生ですから、義務教育ですから、当然町の教育期間としてその対応をとらなければならないと思いますので、教育長がいればよかったですけれども、ぜひ町としてこういう事故の際の学生の対応等を、町民周知も含めた対応をいまの部分を超

省にさせていただいて、検討して、次回の時にはきちんとした対策をとっていただけるような仕組み作りをしてほしいということを要望させていただきます。

（「関連」と呼ぶ声あり）

**竹田委員長** 又地委員。

**又地委員** 事故があったと。そうすると、JRさんのほうから町のほうには連絡が来ないのでですか。

それと、防災無線で町民に周知したのは、1回だけ私は聞いているのだけれども。「代替のバス等が出ているはずですよ。時間等に関しては、木古内駅に連絡して確認してください。」そういう内容の防災無線が入りました。これは、誠にあれですね、心がないですね、防災無線をかけるほうも。やはり、例えば駅のほうから連絡が来ないのであれば、それを木古内駅に確認して、そして防災無線で町民に周知をしてやるというのが心の通った行政ではないのかな。町としては何にもわからないから、「JRの駅にあれして、あなた方勝手に対応しなさい。いま不通なのです。」というくらいですよ、表向きは。何も町民のことを考えていないのではないですか。そういうのはできないのですか、担当として、行政として、私はできると思うのです。いち早く、例えば列車が脱線した。線路は単線だから、みんな止まるだろうというのは察しが付くはずですよ。そうしたらいち早くJRに行って、その辺の詳細を把握して町民に周知をするというのが、これ行政の仕事ではないのかな。

私のところにも電話が来ましたよ。「駅に行っても、駅もわからないという話だ」と、「それはどういうこと」と言ったら、電話がもう集中しているのですね。「どうすればいいのかな。父さんを迎えに行かなければならない。」と、「どうした」と聞いたら「病院だ」というわけです。「ああ、そうかそうか」と言って車を出してあげたけれども。その辺もう少し、町自体が走って歩くべきではないのかな。

だから、有事の場合は防災組織の部分ではあるのですよね、担当が決まっているのですよね。そのスッと活用できる体制に私はなっていると思うのだけれども。これは、町長あれですか。こういう事故は一昨年もそうだったのですか。何らJRから電話とか自治体に入らないのですか。おかしいですよ、それは。入っているでしょう、たぶん。ちょっとその辺、整理して教えてください。

**竹田委員長** ちょっと関連なのですけれども、やはりいま両委員から出されたそういう部分を。町長、これ行政報告にそういうコメントというのは、行政報告はできないのですか。貨物列車の脱線事故の、新聞に出ているより詳しくない。新聞のほうがずっと詳しいのですよね。ですから、逆にいま言われた「中学生の通学の対応については、こうしました」と。「何もやりませんでした」なら「やりません」でいいのです。やはり、行政がとった部分を。そして、又地委員が言われたような部分も含めて、職員をすぐ1人駅に待機をさせるだとか、やはりそういう部分のあれというのは一番根幹になる部分ではないかと思うのですけれども、まず町長の答弁をもらいます。

総務課長。

**新井田総務課長** お二人の委員から出されたことは、ごもっともなことだというふうに理解しております。当日の対応としては、事故の起きた日曜日の朝にJR貨物さんのほうからは連絡がまいりました。それは、代替バス等ではなくて「作業をするのにいろいろ作業員が必要なので、休憩所等の場所を、公共施設を何とか貸してもらえないか」ということ

で、札苧のみらい館の開放について、現地のほうと調整をしてそういうはからいをしたところでございます。

また、JRの駅のほうにも電話等はなかなか連絡が取れないというような状況で、新聞等でもありますように、なかなかJRの木古内駅、あるいは函館駅に代替バス等の問い合わせをしてもJR自体がなかなか明解な回答ができなかったという事実もございまして、また町としては、日曜日の午前中にJRさんのほうに確認をさせていただいた時には、「代替交通等については、JRのほうに問い合わせをするように」というようなことで、JRのほうからそういう発言もございましたので、それ以上私どものほうでどうこうするというふうな状況にはならなかったというのが現実でございます。以上です。

**竹田委員長** 大森町長。

**大森町長** 総務課長とJR、あるいはJR貨物等とのやり取りについてはご説明したとおりでございます。事故の検証をしておりますので、JR北海道等からの連絡というのは、私どものほうには直接はすぐ入っておりません。JR北海道は、翌日になってから「これまでの、この時点までの説明に伺う」ということでお出でいただきました。そしてまた、その日社長会見、記者会見があるということで、その会見の内容についても再度お出でいただいたということで、函館の取締役支社長が翌日2度、経過等についての説明にお出でいただいたと。

当日については、このように私が一番最初に事故の報告を得たのは、木古内の警察署長です。「住民のかたが現場に入りたいということを言っているのです、それはお断りしました」と。「現在、調査中ですので住民のかたには現場には入らないようお願いをいたしましたので、そういった問題があった時には対処をお願いします」と、こういったことで事故をはじめて知りました。ですから、それまでは事故があったという事実も知らなかったわけで、それは7時前後だったと思うのですけれども。その時の警察署長からはじめて知ったというのが現実でございます。

対応については、前回の釜谷の対応と比べますと、釜谷の場合はあまりJRからの説明も早急になかったわけですが、当日の対応は何も変わっていませんが、翌日の対応については速やかに状況の説明にお出でいただくなど、対応は早かったというように思います。

ただ、こういうJR等の事故につきましては、町として何ができるかということを考えた時に、では駅にいて何ができるのか。当日は日曜日でしたからスクールバスも動いてなかったかと思いますが、夜中だったり、日中だったり、平日だったり、様々な時間帯で事故というのは起きる可能性はあると思いますので、今回の皆さん方のご意見も十分わかりましたので、そういったことを勉強しながら、何ができるのかということは改めて考えておかなければならないと思います。様々なケースが出てくるものですから、「地震がきました、津波です」という場合には、「逃げる」ということで皆さんにお願いをしているのですが、今回の場合は「逃げる」というわけでもないですし、そういった面では町として何ができるのかというのは、もう少し研究の予知があるのだというふうに思います。そんなことで、今回は特段情報のない中で行動としては何もしませんでした、少し勉強を試みたいと思っております。

**竹田委員長** 又地委員。

**又地委員** 町長は、「勉強をする」だとかと言っているけれども、防災計画を作っていて、

そして業務担当。万が一の時の担当業務は決まっているわけですよ、町職員の間では。だから、それは地震だとか津波ばかりを私は防災計画に当てはめるべきではないと思うのです。だから、例えば教育委員会がここにいないけれども、例えば汽車が止まったと。そうしたら、いち早く教育委員会サイドも動かないとだめです、通学の子ども達がいるわけですから。だから、その辺は防災計画の中にもきちんと入っているはずですよ、入っているんですよ実際に。だから、その辺は「これから勉強をする」とかということよりも、臨機応変に役場職員がどんな形で動くかですよ。そんなことは言わなくてもわかることでしょう。「汽車が止まりました」、そうしたらいち早く、担当の総務課もそうかもわからないけれども、教育委員会サイドだってそうですよ。だから、1から10まで命令をどこかの部署で発信をしないと動けない組織になっているのかどうかです。これもまたおかしいですよ。どこかが自発的に、「汽車が止まった」。自発的にどこかの部署が「わあっ」と表面に出て、「どうする、こうする」という話を持ち出さないと何も絵に描いた餅でしょう、防災計画なんて。

あと、町長、今回のこの事故で三セクに残された課題がまた出てきていますね。テレビに放映されて、鉄橋の上の枕木、木ですよ。木ですよ、木。これは丈夫な枕木だと思うのですよ、鉄橋の上は。だけれども、もうだめですね。三セクに向かって行って、何年かしたら腐り出しますよ。だから、私が前から言っている橋梁、トンネル。普通の汽車が走っている路盤の部分では、「枕木をPC枕木に交換してありますよ」と、それも8割と言いましたか。だけれども、それ以外のところは私達が見れないのです。橋梁の上、鉄橋の上の枕木がどうなのか、あるいはトンネルの中の枕木がどうなっているのか。皆目わからない。そうすると、今回のこの事故でまた負担が。きょうの道新にも出ていたけれども、函館市の問題も出ていたけれども。そういう懸念が何かどんどんどんふくらんでいく。今回のこの事故を受けて、町として、あるいは交通体系の特設委員会もあるのだけれども、町として何かをしないとだめですね、JRさんに対して。と思うのですけれども、町長どうですか。

**竹田委員長** 町長。

**大森町長** まず、防災の関係でございますが、確かに防災計画の中で、住民の皆さんの安全を守るという形での対応のマニュアルというのができていますが、今回の事故があって人を輸送するなどについては、しっかりとした対応の組織ができておりませんので、これは勉強をさせていただいて、これを有事と言えるかどうかちょっとわからないのですけれども、公共交通がストップしたという、線路で止まってしまったと。こういうことで、それに乗る人の輸送ということになりますので、これは少し勉強をさせてください。

もう一つは三セクの関係ですが、事故の翌日、渡島総合振興局の宮内局長。さらに、道議会がはじまっていますので、道庁の新幹線担当の菰田課長など新幹線に伴う道の担当者がお出でになりました。その中で、この事態を捉えて現時点でどのような考えをお持ちかということのお話がありましたので、私なりの考えは伝えました。きょうマスコミがおりますので、いまここで「こう言った」という話はしません。しませんけれども、私なりの考えは伝えました。その中で、大きなのは「三セクの安全性というのを根本から考え直す必要があるでしょう」と、このことは伝えました。これまでは、ある程度様々な状況の中で、新幹線の開業日に三セクが動くということで進んできて、「8月の三セクの会社も作り

ましょう」というところで皆さん方のご理解をいただきましたので、そこに進んできましたけれども、「一度立ち止まって三セクが本当に安全なのかということのをいま一度考え直してからスタートする必要があるのではないだろうか」と、これは伝えました。これ以上のこともまだいろいろ話をしています。しかしまた、ここでそれを一つずつお話をしましてもいろいろと差し支えが出てくるところもあるものですから、その部分だけ話したことをお伝えいたしております。

**竹田委員長** 福嶋委員。

**福嶋委員** 本来の業務から話がちょっと外れるかもしれませんが、町長にちょっとお尋ねします。

実は、昨日、一昨日、函館市の市議会議員と会ってきました。その中で、いま新幹線の問題が青森を含めてあちこちスピードをダウンしていると、この現況であります。その中で、北海道知事が「田舎の停車駅に停まるなど、スピードアップしろ」とこういう陳情をしているそうだけれども、町長はそのことの内容を知っていますか。

**竹田委員長** 町長。

**大森町長** 存じ上げておりません。

**竹田委員長** 福嶋委員。

**福嶋委員** 最近の話ですよ、それは。非常に地方について、我が町の第一停車駅が町も含めて、トンネルの抜けた安全地帯の木古内駅が必要だと認めてやってきたわけでしょう。「それを停まらない、早くスピードアップするために田舎に停まるな」と、「地方に停まるな」と、こういう陳情を国に向けてやっていると。何を考えているんだと。北海道の人口がこれだけ減ってきて、「地方に停まるな」と、「札幌までノンストップで走れ」と。いくらも停まらない駅に「停まるな」という陳情をしていることはどういうことだと、「木古内町長は知っているか」と、こういう話ですよ。田舎のあれをばかにしている。最近の安倍首相に似てきているのかわからないけれども、どうもあまりにもこう地方をばかにしていますね。そういうふうな感じもとられていますし。

またもう一つ。渡島の町村会長・副会長二人で、北斗函館の問題にアピールして陳情に行っている。全然話がずれて、これも函館市はかんかんに怒っていますよ。町長は知っていますか。

**竹田委員長** 大森町長。

**大森町長** 1点目はいいですね。全く知らなかったこととございますので、いまはじめてわかりました。

ただ、国の動きとして、開業日には3時間台での列車を1本、新函館北斗駅まで走らせようということで、それを一つのPRにしようという動きはあるのは知っています。それと今回の知事の行動が、一緒かどうかはわかりません。

もう一つの新駅の問題ですが、「新函館北斗駅」に決定しました。その過程の話をきくと福嶋委員がお話をされているのだと思いますが、渡島町村会の中で会長並びに副会長のほうから、「町村会で名前を議論をしよう」ということはありました。これに対して、賛成の人と反対の人がいましたので、話をするかしないかで1時間くらいもめて、結局トータル1時間半やったのですけれども、結論が出ないで議論にはなりませんでした。その中で、福嶋委員がおっしゃるとおり、会長・副会長は「議論をしましょう」ということは発



言しています。その中で、私は「ここで発言する必要はない」と、「あくまでも当事者の問題であって、ここで議論するものではない」と。

また、ある町長はここに函館市さんと北斗市さんがいて、「どっちがいい」と言われれば「こっち」と答えるけれども、「当事者もいない中でそんな話することはできない」と、こういった議論もありました。

また、直接「自分はこっちの名前がいい、こういう名前がいい」というかたもいました。ただ、皆さんこれを議論するかどうかという意見の中で自分の発言をするものですから、その中でその人の考え方もよくわかってなんかして、非常に複雑になった議論になっていました。最終的には、それは話さないで終わったということでございます。

**竹田委員長** 福嶋委員、よろしいですか。

福嶋委員。

**福嶋委員** はい。

**竹田委員長** 町長。

**大森町長** すみません。実は、この話は町村会で2回持ち上がっているのです。1回目の時は、もうマスコミを呼んでいて、会長・副会長がマスコミを呼んでいて、我々に意見を求めたと。町村会で、まず町村会の考え方を聞こうではないかというのがありました。マスコミが来ているといっても、我々はそこに行ってはじめて知ったわけで、あと30分くらいの中で答えを出そうということだったので、それは「無理だ」と。

ということで、マスコミの記者会見ということで、会長と副会長が記者会見に臨んだ。その時に、あくまでも渡島町村会では結論が出ていないわけですから、余計なことは話さないでほしいということで、会長・副会長には話をしました。テレビを見ていたら、会長・副会長どっちかが個人的な見解だけとということで意見を述べていましたけれども、それは勝手に言ったことでありますので、私のとはまた別の考えでのお話だと思いますが。

こういったことが2回あって、2回目の時は1時間半時間をかけて、結局は何も協議ができなかったということでございます。

**竹田委員長** ほかにございませぬか。

(「なし」と呼ぶ声あり)

**竹田委員長** 先ほど、新井田課長からJR貨物から役場に連絡が入ったというのは、これは何日の何時頃ですか。

新井田課長。

**新井田総務課長** 列車が止まった日ですから、6月22日の8時半から9時の間だったと記憶をしております。

**竹田委員長** ほかに。

(「なし」と呼ぶ声あり)

**竹田委員長** なければ、以上で第2回総務・経済常任委員会を終えたいと思います。

どうも長時間にわたり、ありがとうございました。

説明員：大森町長、大野副町長、新井田総務課長、若山建設水道課長、小池主幹  
構口主査、小西技師、木本主査、福田まちづくり新幹線課長、野村教育長  
佐藤生涯学習課長、渋谷主幹、西山主査、木元学芸員

傍 聴：なし

報 道：道新（大塚）

総務・経済常任委員会

委員長 竹 田 努